

新入生合宿研修を終えて

顎顔面解剖学分野 井上（野澤）佳世子

4月10日、11日の2日間にわたり、本学部大會議室と新潟市赤塚のウェルサンピア新潟の2会場で新入生合宿研修が行われました。参加教員は山田学部長をはじめとする、昨年と同じ顔ぶれ一前田教授、宮崎教授、高木教授、興地教授、魚島教授、富沢教授、小野助教授、斎藤（功）講師、大島（邦）講師、山村助手、私一に加え、今年は福島教授も参加されました。私はこれで3度目の参加となりましたので、過去2回の研修を思い出しつつ、今回は違うと感じた点を主に書いていこうと思います。

今年の入学者は歯学科40名、歯学科3年次編入生5名に加え、新設の口腔生命福祉学科20名を迎え、例年になく実に賑やかな合宿となりました。賑やかな理由は女子学生の数です。研修当日の朝、大會議室の扉を開けると、そこは女子大？と錯覚するほど女子学生ばかり。入学直後とあって緊張感は漂うものの、とても華やかな雰囲気です。上記入学者65名中、男性はわずか21名。数字にしてみると、そんなにいたかと驚くほど、男性陣は部屋の後方に小さく固まっていたのでした。賑やかで楽しそうでもあり、少し不安がよぎった瞬間でもありました。

山田学部長の挨拶に始まった全体ガイダンスが終了し、グループでの自己研鑽セミナー開始です。今年は文部科学省の小松医学教育課長がセミナーを視察され、さらに数名の教授の見学も加わって、学生ともども私もチューターとして緊張感を味わうこととなりました。ここで昨年まではメンバー間で他己紹介を行っていましたが、今年は「高校・浪人時代に思い出に残ることを絵に描き、グループ全員の内容からストーリーを構成し、グループのキャッチフレーズを発表する」という自己紹介が始まりました。遊びの入った話題について討論する時間をもたせたことで、学生は緊張が解け、発言が容易になり、この後の討論へスムーズに移行

できた様子でした。

続いて、K-J法を用いた「面接試験での問題点と改善方法の検討」です。方法については過去の報告をご参照ください。私が担当したグループは、例年は良い点よりも悪い点の筆が進む傾向にあったのですが、今年は悪い点が少なく、抽出するのに時間を費やしていました。これは毎年この合宿研修の結果を教授を始めとする面接官にフィードバックしてきた、一つの成果と考えて良いかもしれませんが。

討論も半ばを過ぎた頃から、先の不安が的中です。男性陣が静かになってきました。まさに女三人寄りば…の図です。チューターとしてなんとかしなくては、と参加を促すように試みましたが、非常に難しい。これは私の反省点です。

午後はウェルサンピア新潟へ移動し、面接の改善策を二次元展開法を用いて検討、発表しました。続く自己研鑽セミナー2はPBL「歯学生、万代太郎」です。なんとなく歯学部に入学者、やる気のないシナリオ主人公に対し、毎年このことながら最初は「こんな奴、助けたくもないし、助ける方法もない。」という意見で一致します。その言葉の裏には、私は歯科医療・保健・福祉を担う人材となるために歯学部に入学者したのだ、という強い意思が感じられ、とても新鮮です。このシナリオから学ぶべきことは他にあるのですが、私はその気持ちを忘れずにいてほしい、と願っています。

PBLのスタイルは、新入生には初めての経験で、人それぞれの意見を聞くことができ面白かった、という感想をもった学生が多かったようです。口数の少ない学生が、積極的に発言するように努力することも大事ですし、口数の多い方も他の人の意見を聞き逃さないように、と自覚することが大事だと感じます。先にも述べたように、ここはチューターが手助けをするところでもありますが、私自身、周囲の意見をあまり聞かない性格

のため、まずは自らを正す努力をしないと、学生の指導はできないな、と感じた次第です。

PBL 終了後に、小松医学教育課長より医歯大学教育改革の目指す姿と、現在の取り組みをご説明いただき、本セミナーに関してのお褒めの言葉もいただきました。新入生には新潟大学歯学部が積極的に教育改革を進めていることを知るきっかけとなり、本学で学べることを幸せと感じてくれたのではないかと思います。

この後はすでに赤い顔の教授が並ぶ中、夕食、クラブ紹介、勧誘会が始まりました。3年前の合宿研修では、私は留学で2年間大学を不在にしていたため、クラブ勧誘にきた上級生も、初めて会う学生がほとんどでした。そのために、宴会場で新入生と並ぶ私に、クラブ勧誘の紙をくれる学生さんがたくさんいました。今年は1枚だけ…「井上先生、1年生かと思っちゃいましたよ。」などという学生の言葉も素直に喜ばなくなり、今年は「患者さんにもそんな気の利いたことが言える歯科医になってね。」と心の底から思いました。私も合宿とともに成長したものです。クラブ紹介の感想は、

弓道部のムービーに感心した以外は今ひとつでした。新入生だけでなく、教授もずらりと並んでいるのですから、様々な意味で気合いを入れてアピールした方が良いのではないのでしょうか。来年度に期待です。

夕食の後は、学生と教員の懇談会が夜遅くまで続きました。今年も一つの部屋には入りきらず、2つに分かれて楽しく過ごせたかと思います。過去に比べると、教員のお酒の量が減ったような気がします。皆さんお疲れだったと見えました。少し寂しいです。

2日目は教員がぐったりと見守るなか、学生はグループ対抗のバレーボールを楽しみ、お昼には解散となりました。

今年は歯学科と口腔生命福祉学科との合同合宿で、この機会に友達になれてよかった、という意見が学生から聞こえました。将来の職種は違えども、目的は一つ。これから先も、今回の経験を生かし、二つの科が互いに刺激し合いながら、がんばってほしいと思います。

